

カンボジア国 技術指導報告

対 象 PPWSA : Phnom Penh Water Supply Authority
Distribution Team (Manager Mr,Peng Ty) 8 名

日 時 2009・08・25 (AM 10:00 ~ 3 時間)

テーマ 管種・口径・埋設状況による漏水音の音質の違いと機器の効果的な使い方

今回、カンボジア 水道事業人材育成プロジェクト フェーズ の終了した PPWSA を訪問し、配水管における 漏水調査技術の向上のための技術指導を行いました。

PPWSA は無償供与された漏水探知器や独自に購入した音聴棒などを所有し、フェーズにおいて、技術講習を受けた方法にて、メータ検針時に音聴棒にて点検を行っています。しかし配水本管・支管の漏水は、地上に漏洩するまで見つかりにくく、路面音聴技術の向上のための技術講習を希望していました。

PPWSA では、配水管は、DIP・PE 管、給水管は、PE・PVC 管を使用し、日本では一般的な EF 接合*をコスト面から採用していない。したがって単に熱融着の配水本管では、たびたび漏水も発生するため、今回、金属管・樹脂管の違いによる漏水音の特性と漏水探知器の効果的なフィルターの設定方法を実際に採取した漏水音を聞きながら講習を行いました。

現在、雨季のため現場での指導が出来ませんでした。路面音聴調査は、経験によるノウハウの積み重ねが必要であり、PPWSA として更なる路面音聴の経験を積み、機会があれば現場での OJT を望んでいます。

問題点としては、以下のようなことがあげられます

- *設備面：機器の購入予算確保や故障時の対応
- *技術面：原理・理論などの訓練教材の不足、ノウハウの伝承、データ蓄積と生かし方、
- *環境面：計画的夜間調査体制が予算・人員・治安などの面で取れない。

全体の印象として、経験が少ないが基本的な操作は可能である。今後機器の特性や現場の状況にあった使用法を学び、更なる技術向上の必要性、漏水音伝達距離の短い PE 管に対する路面音聴調査の必要性をスタッフが認識していることは、Distribution Team Director / Manager の部門運営やフェーズ における効果によるものと思われれます。

又、現在カンボジア 水道事業人材育成プロジェクト フェーズ に派遣されており、WaQuAC-Net メンバーでもある 北九州市水道局 加賀田勝敏氏にもご協力を頂き濁度表示単位の違いを Distribution Team Director に講習していただきました。

*EF 接合：<http://www.kubota-ci.co.jp/poly/frame18.html>

講習風景

